

## カリキュラムの特徴

### 1 カリキュラム編成方針

観光学部のカリキュラムには、中央教育審議会答申（平成17年1月28日）にある「幅広い職業人養成」の観点から、「観光ビジネスの発展に寄与できる人材」「観光を通じて地域の活性化に貢献できる人材」「観光を通じて国際交流の進展に寄与する人材」の養成を可能にする3つの履修モデルを用意しています。なお、それらの履修モデルは以下に掲げる観光の5つの特徴をふまえて作成されています。

#### 「観光の5つの特徴」

- (1) 観光は、草の根レベルにおける国際交流の場を提供するものであり、市民レベルでの異文化間における相互理解の増進に大きく貢献します。
- (2) 少子高齢化・人口減少社会が到来した我が国において、各地方の地域社会が定住人口の減少に起因する地域経済力の衰退といった大きな課題に直面する中、観光は観光客の誘致を通じて交流人口の増大に貢献するものであり、また所得効果、雇用効果、税収効果などの経済効果により地域経済の活性化に大きく寄与します。
- (3) 観光は、その経済効果だけでなく、文化効果の面から地域住民が自らの地域文化に愛着や誇りを感じられる魅力ある地域社会の実現を通じて地域社会の活性化に大いに資するものです。
- (4) 国民生活における豊かさの基準が「モノの豊かさ」から「心の豊かさ」へ移行する中で、国民の価値観、関心事項が多様化し、高度化する中で、それに伴い旅行需要の多様化、高度化も進展したことから、それらに対応した新しい観光の振興モデルの構築が喫緊の課題となっています。
- (5) 大交流時代の到来と評される21世紀にあって、外国人観光客の誘致による外貨の獲得が見えざる輸出として注目される中で、世界各国における21世紀のリーディング産業としての観光産業への期待およびサービス貿易の分野における観光の重要性が高まり、観光分野における国際競争が一層激化するものと勘案されることから、我が国の観光分野における国際競争力の一層の充実・強化が急務となっています。

### 2 観光学部が養成を目指す3つの人材像と履修モデル

観光学部では、人材育成目標およびカリキュラム方針に従って、以下の3つの履修モデルを設定しています。3つの履修モデルを参考にして、第3 Semester以降から履修が可能な必修選択科目および選択科目の中からどういう科目を選択すべきかをよく考え、自らの夢の実現するために必要となる科目を履修し、勉学に邁進してください。

#### 履修モデルA 「観光ビジネスの発展に寄与できる人材の養成を目指す履修モデル」

国民生活における豊かさが「モノの豊かさ」から「心の豊かさ」へ移行する中で、国民の価値観、関心事項が多様化、高度化し、それに伴い観光旅行者の需要の多様化、高度化も進展しています。それらに対応した新しい観光モデルの構築が喫緊の課題となっており、それらに対応して新たな観光ビジネスモデルの構築および戦略的マネジメントの策定等ができる人材を養成します。

履修モデルB 「観光を通じて地域の活性化に貢献できる人材の養成を目指す履修モデル」

少子高齢化・人口減少社会が到来した我が国では、各地方の地域社会が定住人口の減少に起因する地域力の衰退といった大きな問題に直面しています。観光は観光客の誘致を通じて交流人口の増大に貢献するものであり、それにより所得効果、雇用効果、税収効果などの経済効果をあげ、地域経済の活性化に大きく寄与するものであります。また、それと同時に文化効果の面からは地域住民が自らの地域文化に愛着や誇りを感じられる魅力ある地域社会の実現に大いに貢献できるものであり、その振興は地域力の回復・向上に必要なものとなっています。それらの効果を最大限に活用して、観光を通じた地域の活性化に貢献できる人材を育成します。

履修モデルC 「観光を通じて国際交流の進展に寄与する人材の養成を目指す履修モデル」

大交流時代の到来と評される21世紀にあって、外国人観光客の誘致による外貨の獲得が見えざる輸出として注目を集め、世界各国で国際観光に対する関心が高まっています。それと同時に、観光は草の根レベルにおける国際交流の場を提供するものであり、異文化間における市民レベルでの相互理解の増進にも大きく貢献するものとして高い評価も受けています。そうした特性から、国連が定めた1967年の国際観光年には「観光は平和へのパスポート：Tourism, Passport to Peace」といったスローガンが策定されています。そうしたことから、観光を通じて国際交流の進展、さらには世界平和の構築に寄与できる人材を養成します。

■履修モデル表

観光学部観光学科履修モデル			
	履修モデルA (注1)	履修モデルB	履修モデルC
発展科目群	◆観光経営学④ ◆観光・ホスピタリティ事業論④ ◆デスティネーション・マーケティング④ ◆旅行事業論④ ◆宿泊事業論④ ◆航空事業論④ 交通事業論② 観光関連法規② ホスピタリティ・マネジメント②	◆観光社会学④ ◆観光・ホスピタリティ事業論④ ◆観光政策・行政論④ ◆観光開発論④ ◆観光行動論④ 地域文化論②	◆国際観光論④ ◆観光・ホスピタリティ事業論④ ◆観光政策・行政論④ ◆観光行動論④ ◆観光文化論④ 観光文献講読②
専門科目群	サービス・マーケティング② イベント・ツーリズム② エコ・ツーリズム② 観光財務情報分析② ホスピタリティ論②	観光まちづくり関連法規② 観光経済学② アート・ツーリズム② イベント・ツーリズム② 観光情報システム②	異文化交流論② 国際協力② 観光メディア論② エコ・ツーリズム②

◆：必修選択科目 無印：選択科目

(注1) 履修モデルAが養成を目指す「観光ビジネスの発展に寄与できる人材」とは、旅行事業、宿泊事業、航空事業、交通事業等のいずれか一つの分野の発展に寄与できる人材を意味します。

(注2) ○数字は単位数を表します。

## 卒業要件

観光学部では、以下に示す8つの卒業要件を定めています。これは、学生が卒業時にふさわしい学士力として身につけていなければならない要件であり、また十分なる学士力を身につけた学生を卒業生として社会へ送り出すことが大学の責務であることから策定したものです。

- ①ユニバーシティ・スタンダード科目のうち、玉川教育・FYE 科目群から必修の6科目および「二年次セミナー 201」を修得していること
- ②ユニバーシティ・スタンダード科目のうち、人文科学科目群、社会科学科目群（経済学（国際経済を含む）2単位は必修）、自然科学科目群（データ処理2単位・統計学入門2単位は必修）、学際科目群から各4単位以上、言語表現科目群からはELF201～ELF301で12単位を修得していること
- ③専門科目群（導入科目群・発展科目群・専攻科目群）の必修科目26単位を修得していること
- ④2年次必修選択科目「観光社会学」「国際観光論」「観光経営学」「観光・ホスピタリティ事業論」「観光政策・行政論」「デスティネーション・マーケティング」のうちから1科目4単位以上を修得していること
- ⑤3年次必修選択科目「観光開発論」「観光行動論」「観光文化論」「旅行事業論」「宿泊事業論」「航空事業論」のうちから1科目4単位以上を修得していること
- ⑥上記①から⑤の要件を満たし、かつ留学条件(p.168)に掲げる1年間の海外留学を経験し、合計124単位以上を修得していること
- ⑦卒業時における累積GPAが2.00以上であること
- ⑧上記要件のすべてを満たし、TOEICで700点以上の成績を収めていること

## 卒業までの単位配分

観光学部では、卒業までにユニバーシティ・スタンダード科目、自学科科目の導入科目群、発展科目群、専攻科目群からなる専門科目群および自由選択科目群からそれぞれ必要となる単位数を満たすことが必要となります。

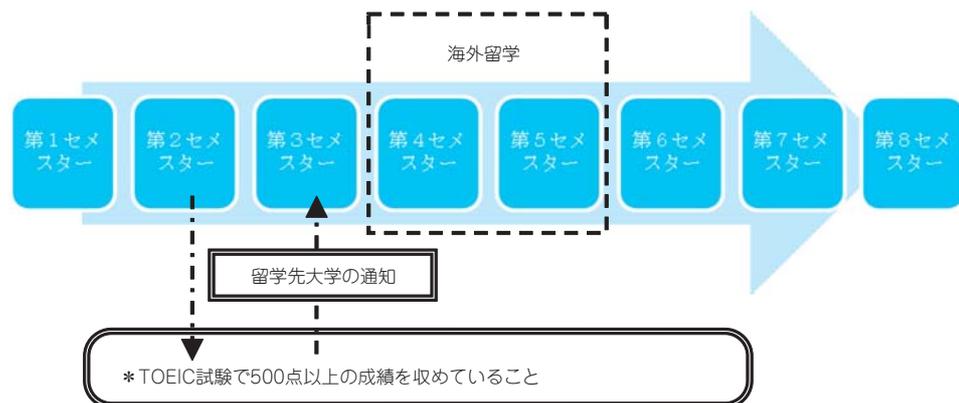
科目群	科目分類	必要単位	備考	
ユニバーシティ・スタンダード科目	玉川教育・FYE科目群	9単位	必修6科目7単位および「二年次セミナー201」2単位を修得すること	
	人文科学科目群	4単位	言語表現科目群「ELF201～ELF301」の12単位を修得すること。人文科学科目群から4単位、社会科学科目群から4単位、自然科学科目群から4単位、学際科目群から4単位、計16単位以上を修得すること (注1) 言語表現科目群の「英語Ⅰ～Ⅲ」「英語コミュニケーション」の履修は不可	
	社会科学科目群	4単位		
	自然科学科目群	4単位		
	学際科目群	4単位		
	言語表現科目群	12単位		
専門科目群	導入科目群	12単位	全科目必修	
	発展科目群	46単位	発展科目群（必修12単位・2年次選択必修4単位・3年次選択必修4単位・留学振替単位）および専攻科目群（必修2単位）の中から46単位以上修得すること	
	専攻科目群			
自由選択		29単位以上	(注2)	
卒業に必要な単位数			124単位以上	
卒業に必要なGPA数値			累計GPA2.00以上	第8セメスター終了時に、卒業に必要な124単位を満たしていても、累積GPAが2.00未満の場合は、最短1セメスター卒業延期となる
卒業に必要なTOEICスコア			700点以上	TOEICおよびTOEIC IP(スコアの有効期限内)

(注2) 自由選択科目の中には、以下に示す科目を含めることが可能です。

- ① 玉川の教育・FYE科目群の中の選択科目
- ② ユニバーシティ・スタンダード科目（言語表現科目群・人文科学科目群・社会科学科目群・自然科学科目群・学際科目群）の中で各科目群の必要単位数を超えた余剰単位科目
- ③ 自学科で必要単位数を超えた余剰単位科目
- ④ 他学部科目
- ⑤ 他大学との単位互換科目

## 留学条件

第2セメスター（1年次）終了時において留学条件を満たしているか否かのチェックが行われます。留学条件は、オーストラリア留学に必要となる英語運用力を備えているか否かの観点から定められています。具体的な条件は「TOEIC試験で500点以上の成績を収めていること」です。留学条件を満たした者は、全員、ビクトリア州にあるディーキン大学、スウィンバーン工科大学、ピクトリア大学の3大学の中から、玉川大学が決定、通知する大学に留学することになります。



## 履修アドバイス、注意および警告

履修にあたっては、各 Semester で要求される履修条件や学修継続条件を満たさなければなりません。Semester 毎に履修条件や学習継続条件が設定されているのは、節目ごとにチェックすることによって、みなさんの学修のクオリティ（質）を保つことが可能になると考えているからです。履修条件や学習継続条件に抵触した場合、つまり履修条件や学修継続条件が満たされない場合には、「注意」や「警告」が行われます。

履修アドバイス、履修条件と学修継続条件の抵触に関しては、以下の図表を参考にしてください。

## 1 履修アドバイス、履修条件（注意）および学修継続条件（警告）について

	担当教員	内容等
アカデミック・アドバイス	担任 教務担当教員 教務主任	A. 日常のアカデミック・アドバイス ①履修相談全般（履修方法、履修科目について） ②履修計画に関するアドバイス ③履修状況の確認・注意（Semester 修得単位数、累積単位数、累積 GPA 数値等） ④履修取消しに関するアドバイス ⑤学修方法に関するアドバイス B. 注意指導、警告指導の際のアカデミック・アドバイス ①進級、卒業に向けての累積単位数および累積 GPA 数値の確認 ②学修方法、学修姿勢に関するアドバイス
注意	担任 教務担当教員 教務主任	各 Semester で累積修得単位数が規定の単位数を下回った場合、または修得科目の累積 GPA が 2.20 未満の場合にも「注意」を行う。また、進捗チェックに抵触した場合、または卒業不可の場合にも「注意」を行う（以下の 2 履修条件と学修継続条件の表を参照）。
警告	教務担当教員 教務主任 学科主任	学修継続条件のページ（p. 24）を参照

## 2 履修条件と学修継続条件

Semester	「注意」「アカデミック・アドバイス」対象者要件		「警告」対象者要件
	累積修得単位数	累積 GPA	
第1	15	2.20	学修継続条件のページ（p. 24）を参照
第2	32		
第3	47		
第4	62		
第5	78		
第6	93		
第7	109		
第8	卒業不可能な学生		

（注1）卒業延期者は、卒業要件を満たし124単位以上を修得したうえで、累積 GPA が2.00以上となった場合に卒業可となります。

（注2）留学中の学生は、「注意」「アカデミックアドバイス」の対象となりません。

## 別表

年次	学期	a. Semester 終了時の累積修得単位数が下記の単位数未満	b. 累積 GPA が下記の値未満	c. 英語力判定テストの結果が下記水準に未到達
1	春	15	2.20	TOEIC® L&R 400点未満
	秋	32		TOEIC® L&R 500点未満
2	春	47		—
	秋	62		TOEIC® L&R 500点未満
3	春	78		—
	秋	93		TOEIC® L&R 600点未満
4	春	109		TOEIC® L&R 650点未満
	秋	当該 Semester で卒業が不可能な学生		